

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	あおもりけんりつあおもりこうとうがっこう				②所在都道府県	青森県	
26～30	①学校名	青森県立青森高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	各学年7クラス280名、全校生徒840名である。うち文類型の生徒は第2・3学年で計235名である。		
普通科	281	280	279	-	840			
⑥研究開発構想名	ロジスティクス戦略を視野に入れた人材育成プログラムの研究開発							
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・リーダー育成のためには、「多様性の理解に基づき課題を設定する力」、「グローバルマインドに基づく企画力」、「理論と実践を融合する力」の3つの力が必要である。そこで、青森県ロジスティクス戦略を視野に入れ、「外国人との交流」、「外国人との協同学習や海外経験」、「ビジネスモデルの開発」に関する実践活動を通してグローバル・リーダーに求められる資質・能力と意志を身につける。</p>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>①目的 グローバル・リーダー育成プログラムの研究開発</p> <p>②目標 ア 異なる価値観や文化的背景を理解することで課題を認識し、設定する能力を育成する。</p> <p>イ グローバルマインドに基づく企画力を育成する。</p> <p>ウ ビジネスモデルの開発により、理論と実践を融合する力を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①現状の分析と課題</p> <p>今日のグローバル化する社会の中で、物流における本県の地理的重要性に基づくロジスティクス戦略を視野に入れ、グローバルマインドを持ち、異なる価値観や文化を尊重し、困難なことに立ち向かうチャレンジ精神を持った人材（グローバル・リーダー）を育成することが求められている。そのため、以下のような仮説を設定した。</p> <p>②研究開発の仮説</p> <p>(仮説1) 「多様性の理解に基づき課題を設定する力」の育成 外国人との交流を通じて、異なる価値観や文化的背景を理解することで課題を認識し設定できる。</p> <p>(仮説2) 「グローバルマインドに基づく企画力」の育成 外国人との協同学習や海外経験を通じて、グローバルマインドに基づく企画力が育成される。</p> <p>(仮説3) 「ビジネスモデルの開発による理論と実践を融合する力」の育成 大学教員、外国人、NPO等外部機関からの意見、助言を踏まえてビジネスモデルの開発を行うことにより、理論と実践を融合する力が育成される。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①一般県民、県行政、県内商工団体・企業、金融、報道等を対象とした研究成果発表会を開催する。</p> <p>②研究成果をまとめた報告書（冊子及びDVD）を、県教育委員会及び学校のホームページに掲載し広く周知を図るとともに、県内の中学校、高校及び教育機関等に配布し、グローバル人材育成に関する意識啓発や教材としての活用を図る。</p> <p>③各学校の管理職、地歴・公民担当教員、外国語担当教員等を対象とした研修会等において、研究成果の報告や事例発表を行う。</p>						

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 急速な人口減少や少子化・高齢化は、国内需要の減少、生産力の低下など本県の産業に大きな影響を及ぼすことが予想され、経済のグローバル化が世界との厳しい競争を生む中、本県の持続可能な成長のためには、元来の強みに依拠した産業の育成・強化とそのため戦略的な発想が必要である。 そこで、本県の全方位的な海上アプローチの良さと物流拠点としてのポテンシャルという大きな強みを生かした青森県ロジスティクス戦略を視野に入れ、青森県の農林水産物・伝統工芸品などの世界各国への販路拡大、青森県への観光客誘致を探究型学習の課題とする。この学習を通じて「多様性の理解に基づき課題を設定する力」「グローバルマインドに基づく企画力」、「ビジネスモデルの開発による理論と実践を融合する力」の3つの力の育成を目標とした教育プログラムの開発を目指す。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ①内容・実施方法 (i)多様性の理解に基づき課題を設定する力 …仮説1 三沢基地内の高校生、県内大学留学生との交流、海外協力校とICTを活用した交流や意見交換 (ii)グローバルマインドに基づく企画力 …仮説2 情報の収集・分析手法の習得、外国人との協同学習、海外でのフィールドワーク、大学の留学生等とのグループディスカッション、プレゼンテーション能力向上のためのワークショップ (iii)理論と実践を融合する力 …仮説3 マーケティングリサーチのレポート作成、ビジネスモデル開発のための現地調査、県産品の海外への販路拡大や観光客誘致のためのビジネスモデル開発、研究成果の発表</p> <p>②検証評価方法 仮説1では、生徒の姿勢や意識をアンケートにより検証する。また、講演や大学・研究施設での研修レポート、プレゼンテーション等により生徒の自己評価及び教員・外部講師等の評価を行う。仮説2では、生徒の姿勢や意識をアンケートにより検証する。また、課題を解決するための企画力を、レポート及びプレゼンテーション等により生徒の自己評価及び教員・外部講師等の評価を行う。仮説3では、プレゼンテーションに対するフィードバックにより個々のモデル案に対する生徒の自己評価及び教員・外部講師等の評価を行う。加えて、アンケート実施及び進路志望により検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 S G Hコース選択者は、学校設定科目「S G Hプロジェクト学習Ⅰ」及び「S G H世界史」を選択する。</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 なし</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ア 東南アジアからの留学生とのビジネスモデル開発 青森中央学院大学にコーディネーターを依頼し、同大学留学生とビジネスモデルの開発に取り組む。加えて、青森県を訪れたタイ国の高校生との意見交換や議論などを行うこととし、実施時期は1学年の年度末休業、2学年の年度始休業、夏季休業、冬季休業期間を利用する。 イ ニュージーランド・ローズヒルカレッジ高校とのビジネスモデル開発 ウ アメリカ・メイン州ホールデール高校とのビジネスモデル開発 両高校と協力し、ビジネスモデルの開発に取り組む。2学年の夏季休業期間を利用し、両高校において、ビジネスモデルの企画内容を深めるために、リサーチ、協同学習、ディスカッションを行い、異文化の中でのチームワークや相互尊重の態度を培い、各グループのビジネスプランを強固なものにする。 エ S G H担当分掌について 校内に担当分掌を組織し、全教員がこの事業に関わることができるよう、校内の連携・協力体制のコーディネート及び事業の企画・運営を担う。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ そ の 他 特 記 事 項</p>	<p>特記事項なし</p>

ふりがな	あおもりけんりつあおもりこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	青森県立青森高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		人	50人	人	人	人	180人
目標設定の考え方: SGH対象は半数以上の生徒の参加を目指す。対象外の生徒は3割程度を目指す。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							5人
	SGH対象生徒以外:		1人	2人				1人
目標設定の考え方: SGH対象は年度1人の増加を目指す。SGH対象外は横ばい。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							60%
	SGH対象生徒以外:			28%				32%
目標設定の考え方: SGH対象は半分以上が留学したいと考える。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							5人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				0人
目標設定の考え方: 年度1人の増加を目指す。その他の生徒は現状の0人。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							70%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%				55%
目標設定の考え方: 年5ポイントの増加を見込む。対象生徒以外は年1ポイントの増加を見込む。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							45%
	SGH対象生徒以外:		29%	35%				40%
目標設定の考え方: SGH対象生徒は年2%の増加を目標とする。SGH対象生徒以外は年1%の増加を目標とする。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							3人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				0人
目標設定の考え方: SGH対象生徒が卒業する年から年1人の増加を目指す。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							85%
	SGH対象生徒以外:		-	-				69%
目標設定の考え方: SGHの課題研究が大半の生徒の専攻分野選択に寄与する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							50人
	SGH対象生徒以外:		-	-				14人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は10人毎年留学する。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
		0人						40人
	目標設定の考え方:SGH対象生徒が毎年参加。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
		0人						80人
	目標設定の考え方:2学年・3学年のSGH対象生徒全員が参加する。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
		0校						2校
	目標設定の考え方:ニュージーランドとアメリカの連携高校							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
		0回						30回
	目標設定の考え方:各学年に10回							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
		0回						9回
	目標設定の考え方:各学年に3回							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
		1人						10人
	目標設定の考え方:2学年・3学年のSGH対象生徒から5人×2グループ							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
		0人						3人
	目標設定の考え方:毎年1人SGHコースに受け入れる							
h	先進校としての研究発表回数							
		0回						1回
	目標設定の考え方:各学年が年に1回発表							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方:SGH2年目から完全整備							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	840	840					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							